

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	びすかびすかJR尼崎駅前		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 20日		～ 2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2024年 11月 30日		～ 2024年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制の整備 1. 広々としたスペースの確保 2. 安全と清潔への配慮 3. バリアフリーと視覚支援の活用	施設の移転により、利用児童数に応じた十分なスペースを確保。 メインルームと療育室2部屋があり、宿題や読書に適した環境を提供。 換気・消毒・滅菌を徹底し、感染症対策を強化。 UV-C殺菌ライトを活用した滅菌処理を実施。 1階スペースでほぼフラットな環境。 障害特性に応じた視覚支援を活用し、個別対応を強化。	環境・体制の整備のさらなる充実 1. スペースの活用最適化 児童の活動の多様化に対応するため、フレキシブルな空間利用を導入(例: 可動式パーテーションの活用)。 療育室の使い方を見直し、個別療育・グループ療育に応じたレイアウト変更を定期的に検討。 2. 感染症対策の強化 UV-C殺菌ライトの効果をモニタリングし、利用頻度の最適化を図る。 感染症発生時の対応マニュアルを定期更新し、関係機関と連携した予防策を確立。 3. バリアフリーのさらなる推進 視覚支援ツールの種類を増やし、利用児童に合わせたカスタマイズを実施。 触覚や聴覚に配慮した支援機器の導入(点字案内・音声案内の活用)。
2	手厚い人員配置と専門性 1. 基準以上の職員配置 2. 研修機会の充実 3. PDCAサイクルを活用した業務改善	放課後等デイサービスの基準を超えた人員配置により、より安全で質の高い支援を実施。 年間8回の社内研修を実施し、職員の資質向上に努める。 外部研修にも積極的に参加し、他事業所との連携や最新の療育知識を習得。 船井総研の研修を活用し、業務の効率化と支援の質向上を図る。	手厚い人員配置と専門性の向上 1. 職員のスキルアップと研修体制の強化 内部研修の内容を拡充し、専門的な療育手法(感覚統合、ABA、TEACCHなど)を取り入れる。 他施設との合同研修の実施を検討し、異なる事例への対応力を高める。 2. 人材確保と定着率向上策 キャリアアップ支援制度(資格取得補助・専門研修の受講支援)を整備。 スタッフのワークライフバランスを考慮した勤務体制の柔軟化(時短勤務制度の導入など)。 3. PDCAサイクルのさらなる活用 船井総研の研修を活かし、支援の質を測定するKPI(支援計画の達成度・保護者満足度など)を設定。 事例共有の場を増やし、成功事例・課題への対応をチームで検討。
3	適切な支援提供 1. 個別支援計画の充実 2. 多様な活動プログラムの提供 3. チームワークの強化	家庭・学校・関係機関と連携し、個別支援計画を作成。 「得意の種に水をあげる」という理念のもと、肯定的な関わりを重視。 ドローン操作を活用したプログラムを実施し、子どもの興味・関心を引き出す。 平日は余暇を重視し、休日はテーマを設定した特別活動を実施。 毎月プログラムの見直しを行い、新しい体験の機会を提供。 週単位で人員配置を調整し、日々の朝礼・終礼で支援内容を確認。 毎日の記録とミーティングで職員間の情報共有を徹底。	適切な支援提供の強化 1. 個別支援計画の充実とフィードバック体制の強化 保護者との定期面談回数を増やし、計画の見直しを柔軟に実施。 児童自身の自己評価シートを導入し、自分の成長を実感できる仕組みを構築。 2. 活動プログラムの拡充 STEM教育(科学・技術・工学・数学)を取り入れた新たなプログラムを検討。 地域資源(博物館・動物園・農園など)を活用した体験学習を定期的に実施。 3. チームワークと情報共有の強化 職員間の連携を深めるため、ケースカンファレンスの実施頻度を増加。 ICTツール(クラウド日報・チャットツール)を活用し、リアルタイムな情報共有を推進。

4	関係機関との連携 1. 支援会議への適切な職員参加 2. 研修や専門機関との協力	子どもの状況を最も理解している職員が支援会議に参加し、適切な連携を実施。 児童発達支援センターの相談員と連携し、継続的な支援を実施。 外部研修を活用し、最新の療育手法を学ぶ機会を確保。	関係機関との連携強化 1. 支援会議の活用促進 会議の記録をデータ化し、過去の支援内容や課題を迅速に振り返られる体制を構築。 他機関とオンライン会議を活用し、柔軟な情報共有を実施。 2. 外部との協力体制の強化 児童発達支援センターや特別支援学校との合同イベントを企画し、児童の社会性を育む機会を創出。 最新の療育研究情報を収集し、職員研修や支援計画に反映。
---	-------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1. 第三者評価の活用不足	現在、行政や関連機関に随時確認をしているものの、第三者による外部評価は未実施。 客観的な視点での業務改善が進みにくく、組織全体の支援の質向上に向けた具体的な指標が不足。	1. 第三者評価の活用強化 外部機関（福祉サービス評価機関や専門家）による第三者評価を定期的実施し、客観的な視点での業務改善を推進する。 評価結果をもとに、具体的な改善策を策定し、PDCAサイクルを活用した継続的な見直しを行う。
2	2. 医療的ケア児・重症心身障害児の受け入れ体制不足	医療ケア児や重症心身障害児の受け入れ体制（職員のスキルや施設設備）が整っていない。 現在は対象児童がいないため影響は少ないが、将来的にニーズが出た際に対応が難しい。	2. 医療的ケア児・重症心身障害児への対応強化を検討 職員向けの医療的ケア研修を定期的実施し、受け入れ体制を整備の検討する。 医療機関との連携を強化し、対応が必要な場合のスムーズな支援提供が可能となるよう準備を進める。 必要に応じて施設設備の見直しを行い、将来的なニーズに備える。
3	3. 専門機関との連携不足	児童発達支援センターとは相談員を通じた連携を行っているが、専門機関からの療育の助言を受ける機会が少ない。 療育の質を向上させるための専門的な支援や、他の先進的な事例から学ぶ機会が不足。	3. 専門機関との連携強化 児童発達支援センターや医療・療育機関と定期的に情報交換を行い、専門的な助言を受けられる仕組みを構築する。 他の福祉施設とのネットワークを拡充し、先進的な療育事例や支援方法を学び、取り入れる。
4	4. 児童発達支援・放課後等デイサービスからの移行支援の未実施	保育園・幼稚園・小学校・特別支援学校などへの移行支援の実績がなく、十分な情報共有の仕組みが整っていない。 今後、年齢が上がる児童が増える中で、スムーズな移行支援が求められる。	4. 児童発達支援・放課後等デイサービスからの移行支援の充実 保育園・幼稚園・小学校・特別支援学校との情報共有体制を強化し、移行支援計画を作成する。 児童の成長に応じた適切な支援が継続できるよう、関係機関との連携を図る。 保護者向けの移行支援説明会を開催し、円滑な移行をサポートする。
5	5. 地域交流や定型発達児との交流機会の不足	アンケート結果からも「交流の実施が分からない」との意見が多い（25/33）。 地域住民や定型発達児との交流の機会を増やし、インクルーシブな環境を整備する必要がある。	5. 地域交流・定型発達児との交流機会の拡充 地域イベントへの参加や共催を推進し、地域住民との関わりを深める。 定型発達児との交流プログラムを企画し、共生社会の実現に向けた取り組みを進める。 ボランティアや地域の協力者を募り、交流機会の多様化を図る。
6	6. 支援の客観的な評価と検証の継続的な強化	日々の振り返りや記録の共有は実施しているものの、外部機関と連携した支援の評価が不足。 例えば、支援の効果をより明確に検証するためのモニタリングの工夫が求められる。	6. 支援の効果検証と継続的な改善 支援の成果をデータ化し、モニタリングや分析を実施することで、効果的な支援方法を明確化する。 保護者アンケートや職員間の振り返りを通じて、支援内容の見直しを定期的実施する。 外部専門家の意見を取り入れながら、科学的根拠に基づく支援の向上を目指す。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和7年2月10日

事業所名:ひすかひすかJR尼崎駅前店

保護者の評価欄の(数字)の説明:達成率、はい/母数、信ぴょう性、わからない未回答を除いた数/総数

※80%以上:達成、79%~60%:ほぼ達成、60%未満:未達成 わからない、未回答は母数に入れず。

保護者調査項目	区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
環境・体制整備	環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用児童数の増加に伴い店舗を移転し、スペースの確保に努めました。メインルームと療育室が2つあり、十分に確保できていると考えております。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:27/27、82%:27/33)	店舗を移転したことにより、十分なスペースを確保することができましたので、そのスペースを用いて、お子さんの宿題や読書の部屋として設定するなど、よりお子さんの為になる環境を設定していきます。 安全に配慮しながら、こどもの目線で丁寧に子どもに関わることができる様に体制を整えます。 身体的なバリアフリーに関しては、問題なく達成しています。心のバリアフリーという点では、視覚支援などの構造化や個別に配慮した提示や対応をしていますが、さらに子どもに合わせた環境を整える事が出来る様、更なる改善をしていきます。 清潔に関しては、換気・消毒・滅菌を徹底して実施しており、引き続き感染症対策に努めるとともに、活動に合わせた環境設定をしていきます。
		2	職員の配置数や専門性は適切であるか	放課後等デイサービスの配置基準よりも手厚い人員配置をして、安全に配慮しながら適切な支援が出来る様、体制を整えています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:26/26、79%:26/33)	
		3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	1階スペースを利用しており、玄関以外はほぼフラットになっています。また、視覚支援を活用し、利用者個々に合わせた伝達に配慮しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:23/23、70%:23/33)	
		4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃や次亜塩素酸ナトリウムによる消毒のほか、UVC殺菌用ライトによる療育室の滅菌を実施しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:30/30、91%:30/33)	
職員調査項目	業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	チーフを筆頭に船井総合研究所の研修を受講し、業務の効率化を図り生まれた時間でプログラムや療育の質を上げる努力を職員とともに取り組んでいます。	業務や支援に関し、職員間で認識が統一できるように会議を随時実施しています。その中で、目標設定を実施したり、実施事項の振り返り、目標の修正などもしています。また、施設運営に関与していると実感できるように随時話し合いをしています。 第三者評価ではありませんが、リタリコや船井総合研究所に相談し、随時あり方を確認したり、行政など関係所掌へ確認しながら業務を進めています。 療育の質を高めたり、あり方を考えるためにも随時研修には参加していきます。	
		2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者を介した客観的な視点からの評価受けは実施していませんが、随時行政であったり、リタリコや船井総合研究所に確認して業務に邁進しております。		
		3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	チーフは基より、職員全員で講師を招き年に8回研修をいたしました。同業者との大きな外部研修へも参加し、交流も深め自社の資質の向上をしました。		

保護者調査項目		区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもと実際に関わったり、ご家族及び学校や他事業所等の関係機関からの情報をもとに職員間で確認し、計画を立案しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:30/30、91%:30/33)	日頃からご家族や子どもとの関わりを大切にしながら、個別支援計画に基づき、支援を提供しています。特に利用開始時には、ご家族との面談で得られた情報と子どもと実際に関わった時の様子を合わせて個別支援計画を作成しています。 計画にも反映していますが、得意の種に水を上げようというコンセプトの下、肯定的に関わり、良いところを伸ばす事で、苦手な部分も克服していけるように支援しています。慣れるところから徐々に参加できる部分を増やし、個別活動・集団活動を通じて子ども同士関わる機会を設けています。 また、平日ではじっくり関与しにくいところを土曜日のピックアップ個別にて生活の部分であったり、コミュニケーションについて取り組んだり、小集団で共同で何かをするという事に取り組む事で平日の支援等の資になるようにしています。 また、本事業所の強みであるドローンの操作を通じて興味を引き出し、状況によりプログラミングの足掛かりとなる部分に取り組むなど特色のある支援も実施しています。 活動プログラムについては、担当が素案を作成し、会議に諮る中で職員全体の意見を吸い上げ、大まかな実施事項を決めています。この際、子どもの成長・発達に合わせた支援となるように工夫し、提供できるように細部を考えています。また、ご家族や子どもの意見を時折伺いながら反映できる様になっています。	
		2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	5領域に基づいて、個別目標を設定しています。各領域をもとに活動も個人の状況に応じて計画を立案しています。			
	2	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画書以外に専門職員が作成した専門的支援計画書には具体的な支援内容を示しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:29/29、88%:29/33)		
		3	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	日々の振り返りの中で療育方針で迷いが生じた際は個別支援計画書をその都度確認し、本人の課題やニーズの理解と共有をしています。		アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:27/27、82%:27/33)
	4	適切な支援の提供	5	チーム全体での活動プログラムの立案	時宜に応じた活動内容を選択するとともにご家族や子どもの意見を取り入れ、また新しい体験もできるような企画も立案し随時必要な支援を職員全体で共有しています。		[斜線]
			6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は、学校帰りである事から余暇も含めたプログラムを実施し、遊びの中で関わりが増える様にしています。休日は、テーマを設定して、個別・集団など普段出来ない事に挑戦しています。		
			7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	毎月、複数回、担当ばかりでなく、職員会議にてプログラム内容の立案や精査を実施しています。当事業所の特徴であるドローンを含め、子どもからの発信を受け入れ新しいプログラムを開拓しています。		
	適切な支援	適切な支援の提供	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	週案にて前週に人員配置の確認を担当で実施した後、月曜日に1週間の流れを職員間で共有。毎朝、その日の支援について朝礼・昼礼にて職員と確認しています。		[斜線]
			9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了し記録を終えた後、支援及びそれ以外の事を終礼にて確認。その日の支援を振り返り、支援の課題や方針などを共有し、今後の支援に活かしています。		

保護者調査項目	区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
職員調査項目	支援の提供(続き)	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	集団は、連絡帳を兼ねて日報に添付する書類にプログラムとその他の活動に分けて様子を記述。個別は、課目ごとに記載していません。普段の会議や職員会議、支援会議などで情報を共有しています。		り返りをして次につながるよう、引き続き全体で情報共有を行いながら、支援を提供していきます。定期的なモニタリングについては、面談などを通じて行う他、送迎や電話・メールなどを含めた日々の関わりの中で行い、個別支援計画に反映させています。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	法令に基づき定期的に面談・会議・支援の見直し・計画の立案・修正を実施していません。状況により、6か月未満でも面談・会議をして支援の見直しをしています。		
	関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者かこどもの状況が一番よくわかる職員が会議には参加する様になっています。相談支援専門員とは必要に応じて随時連絡し、連携できるように心がけています。		
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現状、ご利用はありません。		現状、ご家族を通じて園や学校、児童発達支援の事業所でのこどもの様子を伺っています。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現状、ご利用はありません。		支援の方向性を合わせ、こどもに合わせたより良い支援をしていくため、会議には必要な専門性を持った職員が参加しています。移行支援については、園から学校などの情報共有はしています。卒業時の情報提供などは、今までは対象が居なかったものの、今後は年齢が上がり、移行の対象が増えてくることも予想されるため、対応出来る様に準備していきます。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	相談支援の事業所からの情報提供と状況により必要であれば、児童発達支援の事業所と調整して連携しています。しかし、移行支援としては、実施していません。		医療ケア児や重症心身障害児に関しては、当施設では受け入れる能力としての職員であったり施設の整備は出来ておりません。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現状、そのような事例はありません。		

保護者調査項目		区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	5	関係機関との連携(続き)	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	児童発達支援センターの相談員を通じた支援の継続という意味での連携はしていますが、専門的な見地に立った療育の相談という点では実施していません。研修については、随時受講しています。	療育を主観的に実施せず、客観的な視点で実施するための配慮としては、他事業所を含む関係機関と連携して様子や対応などを必要に応じて共有しています。職員の専門的な知識の習得という観点では、行政やリタリコなど様々な方法で研修に参加しています。定型発達のこどもとの交流や地域との交流という観点では、「しょうがい」をオープンにしている方が殆どで、アンケート結果では、わからないが多い(25/33)ので実施していません。近隣には、折を見て関わる事で日頃の関係を築いていきます。また、今後の取組として講演会なども実施できればと考えています。	
			7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	デイへの通所を公にしなかったり、告知をしていない等「しょうがい」を公表したくない利用児・ご家族が中心でニーズが無く、外部と一緒にする行事は実施していません。地域に施設を知って頂くところまでは至っていませんが、近隣とのトラブルが発生しない様、折を見て日頃から関わる機会を持てるようにしています。		
			8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営			
保護者への説明等	3	保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時・送迎時など随時必要事項をお伝えしています。また、請求書、通所給付費明細書を毎月お渡ししています。質問事項があれば都度説明させています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。(97%:29/30、88%:29/33)	契約時には、契約書、重要事項説明書、利用者負担その他情報保全などについて説明しています。また、報酬改定時にも随時説明しています。個別支援計画は直接面談して説明したり、書面を交付してご確認頂きながら同意を得て支援をしています。送迎時や電話・メールなど日頃からのやりとりを通じて、共通理解を図り、支援に活かしています。随時、ご家族へのニーズに応える事が出来る様、日々邁進していきます。
			2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	法令に基づいた時期に面談をするともに、初回では捉えきれない部分を補足するためにも、状況に応じて時期を短縮して面談しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。(97%:29/30、88%:29/33)	
			3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	現状、実施しておりません。	アンケート結果では、目標未達成となっています。(79%:15/19、45%:15/33)	
			4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎やメール・電話など複数の手段で情報を共有しています。必要に応じ、膝をつき合わせた話も随時実施しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。(96%:27/28、82%:27/33)	
			5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	ご家族からのご相談に対しては、随時承り、まずは共感してから、対応可能な範囲でご回答させて頂いたり、適宜相談できる場所をお伝えしています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。(100%:27/27、82%:27/33)	
			6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	店舗移転等のご見学が中心となり、保護者同士の連携や懇親などに時間をとれませんでした。次年度は例年通り実施いたします。	アンケート結果では、目標未達成となっています。(50%:7/14、21%:7/33)	

保護者調査項目		区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明等(続き)	保護者への説明責任・連携支援(続き)	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情の窓口に関しては、契約時にお伝えするとともに、日頃から送迎時やメール・電話などにて相談できる体制を心掛けています。	アンケート結果では、目標未達成となっています。 (100%:19/19、58%:19/33)	ブログやホームページ及び実施記録を通じて日々の出来事や行事については送迎時などに口頭でお伝えしています。連絡帳には細かく事業所内での様子を記載しています。保護者から質問等があった場合は、電話で状況を説明し家庭と事業所で連携しています。 また、苦情対応については、わからないとのご意見を頂いています。ご家族からのご相談には、出来る限り迅速に丁寧に対応出来る様に心がけてまいります。 個人情報の取扱いについては、利用児やご家族ばかりでなく、職員分についても適切に管理する様にしていきます。
		8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	個別に対応させて頂くとともに、全員に分かりやすい表示や様々なツールを用いて疎通が図れるよう配慮しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:27/27、82%:27/33)	
		9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	ブログやSNSにて活動をお知らせするとともに、活動の予定や参加については毎月、文書とホームページ等を通じて発信しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:30/30、91%:30/33)	
		10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に関しては、利用児ご家族ばかりでなく、職員についても法令に基づいて対応しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:28/28、85%:28/33)	
非常時の対応	非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	感染症や非常事態のマニュアルについては作成し、ご家族には、書面にて配布済みです。また、都度対応の際には確認しています。職員には訓練などを通じて伝えています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:27/27、82%:27/33)	危機管理については、ご家族からこどもの情報を得るとともに研修やマニュアルに基づいた計画及び想定訓練などで実態に即した準備をしています。 虐待については、研修を受講し、支援のあり方について検証しています。 身体拘束は現在実施していません。人権事案に該当するような重要な判断は、重要事項説明書や個別支援計画を通じ、組織的な決定をもって実施していきます。
		2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	法令に基づき、火災や地震、水害などを想定した訓練を定期的実施しています。実働と想定問答を交えて実施しています。	アンケート結果では、目標未達成となっています。 (100%:16/16、48%:16/33)	
職員調査項目	非常時等の対応	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年2回定期的に身体拘束および虐待防止研修を実施しております。また報告書を作成し、それをもとに職員全員で総括し、支援に関する方向性をすり合わせています。	/	
		4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状、身体拘束は実施していません。個別支援計画書にも記載しています。また重要な事項については、ご家族に説明・同意を得てから、職場内で組織的に決定していきます。		
		5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時にアレルギーについてアセスメント用紙に記入いただき、おやつに関する事項は把握し、クッキングをする時には都度ご連絡を行い、確認させて頂いています。		アレルギーに関しては、契約時にアセスメント用紙にご記入いただき、食に係る活動の際には、ご家族やこどもと相談しています。

保護者調査項目	区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	対応(続き)	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	日々のミーティングや会議において、起こった事は共有しています。再発防止のため、対応策を考えていきます。些細なことでもヒヤリハットノートを活用し、職員間で常に共有しています。		事故報告やヒヤリハットに関して、日頃のミーティングを通じて、職員間で共有しています。今後もしっかりと書面に残していきます。
満足度	満足度	1	子どもは通所を楽しみにしているか	得意の種を見つけ、それに水を上げようという事で、こどもの持つ良い部分を伸ばす事を意識して、肯定的な関わりをベースに支援しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (96%:26/27、79%:26/33)	ご家族からは、満足しているとの意見を多数いただきました。引き続き、子どもやご家族に信頼頂けるよう、支援に邁進するとともに、支援内容をより詳しくお伝えできるようにしていきます。
		2	事業所の支援に満足しているか	当事業所の強みであるドローンを筆頭に体験型の放課後等デイサービスとして、自分では選ばないであろう事にも挑戦していけるような活動を考えて運営しています。	アンケート結果としては、目標は達成との評価をいただいています。 (100%:30/30、91%:30/33)	